

下田山塊 内白根沢俎岩スラブ

トマでは4、5月あたりを岩トレ月間と称し、沢シーズン前の岩トレを啓蒙しているが我々は5、6月あたりに、昨年は御神楽岳、それ以前はジロト沢や前ヶ岳と毎年のようにスラブ登りを計画し、思うにまかせて探求している。

俎岩スラブは3年前に1泊2日で計画したものの、土曜の天気が悪かったため、日曜日帰りにて大滑沢白板スラブに転進した。しかしそのスラブへのアプローチ途中で膝を故障して1年以上苦しんだ、その苦い記憶が未だ頭から離れない。

【日程】

2016年5月21日(土)
~5月22日(日)

【メンバー】

佐貫(Ⓐ)、棚橋

【グレード】

3級下

【地形図】

栗ヶ岳

【記】 棚橋

5月21日(土) : 晴れ

道の駅にて仮眠の後、早々に親沢林道の入口まで移動する。駐車スペースには既に3台の車が駐車しており、意外と来ているなど思ったのも束の間、すぐに釣師とすれ違う。沢が林道を横断する箇所は何れも手が加えられており、この辺りも近年の大雨にやられたのだろう。登山口は前回訪れた時には既に付け替えられた後だったが、最初に来た頃より少し奥になっている。

無雪期に訪れることは久々だなと思いつつ、2時間ほど登ると白根山の山頂に着く。山頂では単独の男性が食事の最中で、私も傍らでおにぎりを頬張る。どちらからともなく話をしだし、この辺りの山のことで結構話が弾む。我々はこれからが本番なので時間を見計らい、白根越を目指して歩き出す。

山頂付近は殆ど登山道であるが段々藪が煩くなってくる。それでも元々の道がしっかりしているからか、見失うことはない。また途中で「いかにもマナイタ」が見え、こちらも恐らく間違えることはないだろう。遠望する限り、思っていた以上に立っており、下降ルートが多少心配される。

白根越を過ぎたら内白根沢に下りるつもりであったが少し行き過ぎてしまい、支尾根を乗っ越して沢に入る。小さい沢だが切れ込みが深く、いかにもこの辺りの沢らしい。だんだん雪が目につくようになり、寡雪の今年且つ標高600m以下であるにも関わらずスノーブリッジの連続となる。また3m位の滝が下り難そうなので巻きを選択、結構長くトラバースする。

もうすぐスラブの基部という所で大規模な雪渓となり、一度は無くなったがまた現れ、幕場予定地はどうやら雪の下のような。佐貫は雪渓に上がって更に下流を偵察に行ったが良い場所はなかったとのこと。すっかり出直しムードを漂わせている。しかし少し戻った所に二人であれば十分泊まれるスペースが得られ、一件落着。水面よりはそれなりに高いがゴルジュ地形のため天気が不安定の場合は安心できない幕場だが、今回の天気なら心配ないだろう。早々に泊まり装備をデポして、スラブの取り付け部に戻る。

近くで見ると萎縮する程の斜度はなく、登攀ルートにあたりをつけて先ずはフリーで登り始める。そして松ノ木リッジ下の灌木が生えている辺りより、ロープを着けて登り始めることにする。

- ・1ピッチ目(棚橋)：松ノ木リッジの下より、易しいところを右上気味に登る。(50mIII)
- ・2ピッチ目(佐貫)：中央部を登り、灌木にてピッチを切る。(50mIII)
- ・3ピッチ目(棚橋)：スッキリしたスラブ。(45mIII)
- ・4ピッチ目(佐貫)：最後はブッシュの中。(50mIII)
- ・5ピッチ目(棚橋)：中央部を果敢に攻めることはせず、少し左から廻り込む。その後はハーケン

にて支点を取りながら右上。(60mIII)

- ・ 6ピッチ目(佐貫)：最初はブッシュの生えた奥行きのあるテラスを左に進んだ後、ハーケンを打ちながらバンドに沿って左上。(50mIII)
- ・ 7ピッチ目(棚橋)：リスが浅く、殆どランナウト状態。効きの怪しいハーケン2本にてセルフビレイを取り、座り込んでボディビレイ。(50mIII)
- ・ 8ピッチ目(佐貫)：頂稜まであとわずか。(15mIII)

石小屋沢のスラブを眺めながら少し休憩。その後、稜線に沿って少し戻った後、藪を伝って下降を開始する。なるべく木が繋がっている所を選びながら下り、最後は沢に下り立つ。出合まで少し下ると、登る時によく見たスラブ右端のルンゼだった。登り2時間半強、下り1時間強。登りはもう少し果敢に登れば30分位は短縮できただろう。

デポ地に戻って幕営の準備を整える。良さげなウレイもそこそこ採れ、焚火もすぐ点いた。どうせこの辺りにデポしてからスラブを登るのだからと、複数本のビールやいつも以上の量のつまみといったお楽しみグッズでザックが重かったが、無事登攀できた満足感も手伝い全て消費し、歩荷してきた苦労も報われた。

5月22日(日)：晴れ

早めに帰京したいと思い、6時に出発。昨日大高巻きして下った滝は何とか登れたので時間短縮となった。その後は往路を忠実に登り返し、2時間強で白根越えに到達する。更に1時間ほどで白根山の山頂に着いたが陽が当たっていて暑いので、日陰を求めてもう少し進んだ所で一本取る。

前白根の手前でトレラン風の単独行者が登ってきた。そして少し進み、再来週に会山行で訪れる予定の中ノ又山を遠望すると真っ黒だった。急な箇所を下り始めた辺りで男性二人パーティとすれ違う。少し話をすると地元の方々らしく、東京から訪れた我々に好意的だった。更にご夫婦らしき二人パーティも登って来られ、結局今日の行程中で出会った人は5人だった。その後もさっさと下ったので幕場からの所要時間は5時間半と、想定より少しだけ早く車に戻る。

いつもの如く「いい湯らてい」で汗を流した後、今回は三条の市街地まで移動して前回食べ損ねたこの辺りのソウルフードらしい、カレーラーメンを食して帰った。なかなか美味だった。

笠堀から粟にかけては厳冬期から盛夏と季節を問わず訪れてきたが、今回はなかなかの好山行であった。俎岩スラブとはなかなか素敵な名前だが、実際目の当たりにするととってもベタなネーミ



この辺りの沢らしい



俎岩全景

ングだなど、私にはそう思えてならない。

【行程】

5/21 ゲート(6:45)～登山道入口(7:05)～白根山(9:08/32)～白根越(10:14)～俎岩基部(12:45/13:00)～俎岩頂稜部(15:37/55)～俎岩基部 C1(17:10)

5/22 C1(6:05)～白根越(8:20/31)～白根山(9:35)～登山道入口(11:20)～ゲート(11:38)

